

令和7年度 こども園評価表

( 中間・最終 )

竹原市立たけのここども園

| 基本理念及び教育・保育方針 |  | 「生きる力」を育成するために調和的な成長を図り、保護者や地域の期待に応える。 |   | 教育・保育目標 | 夢をもち 心豊かにたくましく生きる子供の育成 | めざす子供像 | げんきな子 やさしい子 がんばる子 |           |  |   |      |   |   |
|---------------|--|--|---|---------|------------------------|--------|-------------------|-----------|--|---|------|---|---|
| 評価計画          |  |  |   | 自己評価    |                        |        |                   | こども園関係者評価 |  |   | 改善方針 |   |   |
| 中期経営目標        | 短期経営目標                                   | 目標達成のための方策                             | 目標値   | 担当      | 10月                    | 2月     | 評価                | 結果と課題の分析  | 評価   |   |      | コメント  | 改善方針  |
|               |  |  |   |         | 達成値                    | 達成値    |                   |           | イ  | ロ | ハ    |   |   |
| 信頼される園        | 地域・保護者に信頼され貢献する園になる。                     | 園の方針、教育・保育内容を保護者に周知し、理解を図る。            | ①各クラスで日ごろの保育の様子などを学期に1回以上掲示する。                        | 100%    | 主任                     | 100%   | 100%              | A         | ①後半期は発表会があり、その大きな行事を行う中での取り組み経過や行事後の様子を写真掲示することで、行事に向けたねらいや視点を保護者に伝えることができた。行事当日のみの評価ではなく、その前後の園児の成長を喜び合えることに繋がった。<br>②引き続き毎月の育児サークルの継続利用や新規利用があった。園庭遊びや演奏会を行い、園児との交流や園の様子を知ってもらう機会となった。園見学や入園に繋がるケースもあった。冬場は寒さや感染症罹患を懸念して、利用が減る日もあったが、年間を通しては堅調な利用があった。<br>③自己評価は前回と比較しながら自ら振り返りをした。限られた時間ではあったが工夫してクラス会議を行った。じっくり話すことで担任間のコミュニケーションを図り、肯定感をもった保育の見直しに繋がった。 | ○ |      | ・総体的に職員の皆さんが園児の視点で捉えた指導や活動をされており、その結果、園児の長所や可能性を伸ばす良い取組をされていると感じた。<br>・保護者との意思疎通は、園の様子や方針を知っていただくために、とても必要なことなので継続していただきたい。子育て支援活動も、保護者の理解が深まった結果が表れたと思う。<br>・発表会の過程など保護者が見られない時間の様子が伝わる取り組みがとても良い。保護者からの反応が職員の励みになると思う。<br>・日々の保育の様子が写真やコメントから分かり、嬉しく、また安心できた。 | ①保護者の反応を意識すると共に、伝えたい視点を明確にした掲示を継続していく。<br>②支援活動の充実を図り、より多くの利用者に参加していただけるよう内容やPRの工夫をする。利用者の声から、園庭遊びや読み語りなど好評だった内容を継続していく。<br>③引き続き、職員間で話し合う時間の確保に努めると共に、話しやすい雰囲気作りを大切にして、振り返りを日々の保育に活かせるようにしていく。 |
|               |  |  | ②子育て支援活動を学期に3回以上実施する。                                 | 100%    |                        | 100%   | A                 |           |  |   |      |   |   |
|               |  |  | ③教育及び保育並びに子育て支援事業について自己評価を年2回実施する。                    | 100%    |                        | 50%    | 100%              | A         |  |   |      |   |   |
| 幼保小連携         | こども園から小学校への円滑な接続を図る。                     | 相互の教育・保育内容や児童・園児の様子を連携し、理解を図る。         | ①アプローチカリキュラムの改善のため、園内委員会を立ち上げ、年間を通して改善に取り組む。          | 100%    | 主任                     | 50%    | 100%              | A         | ①園内委員会において、市内小学校のスタートカリキュラムやこども園のアプローチカリキュラムを参考に自園のアプローチカリキュラムを作成した。要点を絞って作成したため、読みやすいものになった。<br>②今年度は5回交流ができた。秋の交流をきっかけに、小学生の姿を参考にした遊びを楽しんでいる。交流をきっかけにした学びのつながりや広がりが見られた。   | ○ |      | ・次のステップである小学校に向けて徐々に交流を通して成長を促す良い施策となった。また、小学生からしても後輩に対する接し方を学ぶ良い機会になったと思う。<br>・園児は小学校への興味が湧き、生徒は年下の子への思いやりの心が養われていると思う。<br>・小学校にとっても交流の機会が幼児教育について理解するための学びの場となっている。<br>・小学生と接することで小学生ってこんな感じなのだというイメージが広がったと思う。小学生の遊びを取り入れて遊びが広がった。                           | ①今回作成したカリキュラムをもとに、来年度実施する。継続して園内委員を中心に協議し、改善していく。<br>②引き続き、教諭同士・子供同士が気軽に交流が図れるようにすると共に、ICTの活用するなど、様々な交流の方法について検討する。   |
|               |  |  | ②小学校・小学生との交流を年3回以上実施する。                               | 100%    |                        | 35%    | 100%              | A         |  |   |      |   |   |
| げんきな子         | 成長する喜びや健康への関心を高める。                       | 健全な体の育成のための食育を推進する。健康な体づくりを推進する。       | ①栄養士による食育指導を学期に1回以上実施する。                              | 100%    | 主任                     | 50%    | 100%              | A         | ①計画的に取り組んでいる。給食前に食育指導の時間を設けることで、学んだ内容を給食の場で意識する姿が見られている。<br>②運動遊び月間を設けることにより、日頃から園児は体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。   | ○ |      | ・まず食事前に食べ物を作った方についてや、世界では必ずしも3度の食事ができる子供たちばかりではないことなどを知らせ、食のありがたみを小さいうちから教えることも重要である。<br>・食育指導も計画通り取り組んでいるようだ。特に朝食をとることの大切さを指導していきたい。運動については、偏りのない取組がなされていると感じた。<br>・遊びの中に運動を取り入れるのは良い取組だと思った。<br>・色々な種類の鬼ごっこや、新しく作った遊びで体を動かして遊ぶことを楽しんでいた。                      | ①引き続き、計画的に食育指導を行い、健康な体作りへの興味・関心につなげる。<br>②年間を通した育ちの流れを意識し、子供の発達段階や実態に応じて柔軟に遊びの内容を調整していく。  |
|               |  |  | ②学期に1回、運動遊び月間をもうける。(5月、9月、1月)                         | 100%    |                        | 70%    | 100%              | A         |  |   |      |   |   |
| がんばる子         | 最後まであきらめない力を、年齢に応じて育む。                   | 自己選択、目標の意識化、振り返りの場のある保育を実施する。          | ①週日案に記入した園児の姿をもとに年10回カンファレンスを行い、園児の育ちや援助の方向性について共有する。 | 100%    | 主任                     | 50%    | 100%              | A         | ①週日案の記録を活用することで、園児の生き生きとした姿を基に、カンファレンスを行うことができ、育ちや援助の方向性の共有に繋がった。また、週日案の活用により、職員の負担を増やすことなく、カンファレンスが実践できた。<br>②引き続き異年齢交流遊びを楽しみ、年長児から発信された遊びを年下児が真似して楽しむ姿が見られた。また、遊びに必要な物を考えて作ったり準備したりし、生活の中でも見通しをもって意欲的になる姿があった。   | ○ |      | ・異年齢との交流は、上の人や下の子との話し方など、年を重ねることでの基礎となると思う。<br>・取組の成果が上がっているのがとてもよく分かった。また、自分の作品の価値観、他者の作品の価値観が養われ、比較できる力ももてるようになっていくと感じた。<br>・あきらめずやり抜くことは小学生も課題となっている力がある。こども園での取組がつながるよう学校でも取組を行っていく。<br>・自分がやりたいことや好きなことをやることで、意欲的に取り組むことができると思う。                           | ①園児が生き生きと活動に取り組む場面を捉え、園児の育ちが共有できるカンファレンスを継続していく。<br>②園児の姿を肯定的に受け止めていくことで、より主体的な姿に繋がるよう今後も保育内容を職員間で精査していく。   |
|               |  |  | ②自己選択ができる活動の場を用意し、自己選択に視点を絞った振り返りを週1回以上する。            | 100%    |                        | 60%    | 100%              | A         |  |   |      |   |   |
| やさしい子         | 互いの気持ちや考えを伝え合ったり折り合いをつけたりして、よい関係をつくっていく。 | 関わり合う気持ちを育てる。                          | ①学期に1回以上異年齢児交流をする。                                    | 100%    | 主任                     | 70%    | 100%              | A         | ①大きな交流を定期的に、小さな交流を状況に応じて行うことで、園児がすすんで触れ合い交流する姿が増えている。また、外部講師に普段の取組を見ていただき、客観的な視点からの助言を得ることができた。<br>②計画的に取り組んでいる。絵本や読み聞かせが体験へと結びつき、遊びや生活の中で生かされる姿が見られた。   | ○ |      | ・異年齢との交流は、上の人や下の子との話し方など、年を重ねることでの基礎となると思う。<br>・異年齢児交流はとてもよく行われていると思った。絵本の読み聞かせも十分に行われていると思った。このことが、読書をする習慣を身につけることにつながっていると感じた。<br>・異年齢での活動はリーダーシップの育成にも、コミュニケーションを増やすためにもとても効果的だと思う。<br>・異年齢と交流することで年下との接し方を学び、優しくできる子になると思う。                                 | ①外部講師から得た視点を取り入れながら、行事的・単発的な取組にとどまらない、継続的な関わりとなるよう取り組んでいく。<br>②引き続き、読み聞かせや、絵本を身近に感じられる環境を通して、感情や経験が体験へとつながる関わりを継続する。また、図書館の図書も活用し、園児の興味・関心や発達段階に応じた選書に努める。                                      |
|               |  |  | ②絵本や紙芝居の読み聞かせを、週4日以上する。                               | 100%    |                        | 70%    | 100%              | A         |  |   |      |   |   |

【園関係者評価】

イ:自己評価は適正である。  
ロ:自己評価は適正でない。  
ハ:分からない。